

第2回

「非営利出版のサステナビリティとは—OUP に学ぶ」

オックスフォード大学出版局における
学術出版の進化

オックスフォード大学出版局(OUP)が出版事業に乗り出したのは、500年以上も前のことである。この講演では、世界最大の大学出版局に発展したOUPの歩みを振り返る。講演の後半では将来に目を向け、研究者がどのような種類の情報源を利用しているか、また、彼らがオンライン情報をどのように活用しているかを検証した最近の調査結果について、解説する。最後に、オンライン化が進む世界ですべての学術出版局が直面している課題に対するOUPの対応について、見解を述べる。

マーティン・リチャードソン

オックスフォード大学出版局、マネージングディレクター(学術書・ジャーナル部門)

学術知識を発展させ、大学の地理的境界を超えてその知識を普及させるため、各大学出版局は、その母体機関と本質的な提携関係を形成しています。世界規模の出版社であるオックスフォード大学出版局(OUP)は、オックスフォード大学傘下の組織であり、同大学の目的である研究・学問・教育における卓越性を向上させる役割を果たしています。学問や教育に関する最高品質の資料を出版し、オックスフォードの名を代表することが、OUPの主要な目標です。

OUPには、500年以上の古い歴史があります。17世紀のジェームズ王欽定訳聖書の出版が、その最初の事業でした。その後2世紀にわたって、この出版が収益力のある事業の基盤となり、OUPの拡大を推進しました。国外への進出は、100年以上前の米国支部の開設がその第一歩となりました。現在では、世界の50カ国以上の国々に拠点を開設し、40以上の言語で出版が行われています。今日のOUPは、大学出版界のリーダーとして世界の市場シェアの半分以上を占め、売上げの80%以上を英国国外から得ているグローバル規模の出版局に発展しています。出版物の内訳は、学術・専門分野が40%、学校教材や英語教材が40%、高等教育のテキストが20%となっています。学術分野では、モノグラフを年間1,300本以上、ジャーナルを235タイトル、その他の種類の書籍やオンライン研究を数千種類、出版しています。大規模な米国の大学出版局で

も、1年間に出版するモノグラフは、通常、年間100~200本ほどでしょう。

世界各地の大学出版局は、大きな影響力を持っています。米国で1年間に出版される書籍の10分の1は、大学出版局が出版しています。また、歴史学の新刊書の半分近くは、大学出版局によるものです。大学出版局は、4つのタイプに大別されます。いわゆる「巨人」であるOUPとケンブリッジ大学出版局、ハーバード大学やエール大学など大規模クラスの出版局、コロンビア大学やスタンフォード大学など中規模クラスの出版局、そして、その他の出版局です。

資金調達は、大学出版局が直面している重要な課題です。大規模な大学出版局のなかには、独自の基金を保有しているところもありますが、大半の組織は、その母体機関から補助金を受けています。こうした財政支援に加え、無料の法務、会計、監査業務の提供、賃金や人材面の支援、無料のオフィススペースや設備など金銭以外の組織的支援が提供されることが一般的で、運転資本が提供されることも珍しくありません。しかしながら、オックスフォード大学がOUPに補助金を付与したことは一度もありません。OUPは長年にわたって、剰余金を大学側に譲渡してきたのです。今日では、OUPの剰余金の30%が大学側に譲渡され、設備計画や図書館整備のための基金、学生や研究者を支援する各基金など、大学の使命にかかわる多様な用途に活用されています。

現在の金融危機が起こる以前から、特にこの10年の間に、市場における小規模な大学出版局の状況は、次第に厳しくなっていました。現在、一般的な学術図書館の予算の4分の3近くは、商業出版の上位3社との間で交わされる科学、技術、医学関係のジャーナルの「ビッグディール」に費やされています。こうしたジャーナルへの支出が拡大した結果、小規模な大学出版局の主力商品であるモノグラフを購入する資金は、減少しています。経済危機の影響で母体機関の予算が縮小されたため、母体機関は次々に、小規模な大学出版局を精査して、その自立を促すようになりました。こうした圧力を受けた出版局では、デジタル出版の構想を支えるために必要な最新技術への投資が、困難になっています。インターネットなどの技術が印刷版の書籍やジャーナルの売上げを低下させオンライン情報の需要が高まっている現在、デジタル出版は、大学出版局がデジタル時代にうまく同化していくために不可欠な構想です。

変化し続けるこの環境で生き抜くことができるのは、この変化に順応できる出版局です。OUP が5世紀以上も生き延びることができたのは、読者や著者のニーズの変化に対応して変化する能力があったからです。研究情報の入手方法に関する現状を把握するため、昨年、米国の著者や読者に対するオンライン調査が実施されました。

OXFORD UNIVERSITY PRESS

オンライン調査

- 以下の点を把握するために、米国のOUPの著者および読者36,000人を対象に調査を実施
 - ▶ 現在の研究方法について
 - 信頼できる情報源、各分野の重要な新しい研究を特定する手法
 - 「情報検索」や「利用者調査」
 - ▶ 成長著しい新たなオンラインリソースの利用
 - 電子出版物、ポッドキャスト、ブログ

2,365名から回答が得られ、オンラインジャーナルと印刷版の書籍が、研究者にとって1~2位の情報源であることが明らかになりました。オンラインデータベースおよび学会・会議は、おおむね3位と4位でした。このような調査によって、OUP は市場トレンドを理解し、必要に応じて、ビジネスモデルへの取り組みを図っています。

OXFORD UNIVERSITY PRESS

回答者の構成

2,365人から回答
回答者の年齢層と研究分野は広範囲

Age of Respondents

Respondent Subject Field

OXFORD UNIVERSITY PRESS

分野別調査リソースの上位5位

人文科学	社会科学	科学	医学
印刷版書籍	オンラインジャーナル	オンラインジャーナル	オンラインジャーナル
オンラインジャーナル	印刷版書籍	印刷版書籍	印刷版書籍
印刷版ジャーナル	印刷版ジャーナル	印刷版ジャーナル	印刷版ジャーナル
オンラインデータベース	オンラインデータベース	会議・会合	会議・会合
会議・会合	会議・会合	オンラインデータベース	オンラインデータベース

オンライン化が進む世界における研究者のニーズの変化に、OUP は対応してきました。1994年に、OUP の最初のオンラインジャーナルが出版されました。この10年間にOUP が出版したジャーナルはすべて、オンラインでも出版されています。さらに、OUP のジャーナル150タイトルのすべてのバックナンバーのアーカイブデータが、1850年にさかのぼって追加されました。補足データの保管機能、電子メールでの目次配信、RSS フィード、ブログ、wikiなどの機能も付加されました。また、多様なアクセスモデルも導入されました。

OXFORD UNIVERSITY PRESS

OUPの対応

アクセスモデルの選択

	書籍	ジャーナル
契約購読	√	√
コンソーシアム協定	√	√
文書配信	-	√
購入	√	√
途上国	√	√
オープンアクセス	-	√

2004 年から実施されているオープンアクセス・モデルは、論文をオンライン上で読者に無料公開し、著者が出版コストを負担する仕組みです。このモデルの参加者の多くは、医療や生命科学分野の関係者で、今年は、1,000 本以上のオプション・オープンアクセス論文が公開される予定です。

大学出版局の存続は、大学出版局の役割に関する明確な権限を有する母体機関にかかっています。大学の他の部局と同様に、小規模な大学出版局は、財源の配分を獲得するために争わなければなりません。大学出版局は、多くの理由から、母体機関の継続的なサポートを必要としています。第一に、大学出版局は、地域社会に強力なブランドとしての存在感を提供したり、母体機関の旗手となったりすることができます。オックスフォード・イングリッシュ・ディクショナリーは、そのひとつの例です。第二に、著

者や編集者である研究者たち、および読者層の一部である学生たちによって構成される学術コミュニティにおいて、大学出版局は中心的存在です。さらに、正式な出版物は、研究や学問の評価および普及の中核的な手段であるため、研究資金の調達や終身在職権、昇進には不可欠なものです。

小規模な大学出版局や学術出版が今後も発展するための手段としては、専門とする分野に関する執筆に重点を置くこと、特定の分野の専門知識を向上させること、印刷版およびオンライン版双方の出版に新たなビジネスモデルを取り入れ、最新技術がもたらす可能性を追求すること、そして、大学出版局が単独で実行できる出版活動に真の付加価値を与えることなどが挙げられます。適正な価値を付加できない活動については、外部へのアウトソーシングを検討することが推奨されます。

紹介



マーティン・リチャードソン

マーティン・リチャードソン氏は、オックスフォード大学出版局で、20 年以上にわたってさまざまな職務を担当。現在は、学術書・ジャーナル部門のマネージングディレクターとして、幅広い分野にわたる 3,000 点以上の印刷版およびオンライン版の出版を統括している。オックスフォード大学傘下の組織である OUP は、最新技術とビジネスモデルを活用して、研究および教育資料の普及を拡大する新たな道を熱心に模索している。同氏の主導のもと、OUP は、1990 年代初期にオンラインジャーナルの出版を開始した。数々のオンライン参考文献の第 1 号として、2000 年には、オックスフォード・イングリッシュ・ディクショナリーのオンライン版を立ち上げた。2004 年には、オックスフォード・スカラシップ・オンラインが開始され、OUP の大規模なモノグラフ・プログラム公開の基盤となった。ALPSP、PLoS、CrossRef をはじめ、数多くの出版業界団体において、リチャードソン氏は OUP の代表を務めてきた。会議での発表も多く、オンライン出版のさまざまな側面に関する複数の論文も発表している。